



文化財通信くまもと



第29号
平成23年3月
熊本県
教育委員会

<特集>

細川コレクション

永青文庫常設展示振興基金事業



熊本大学付属図書館
(古文書類の収蔵状況)

熊本県立美術館
(美術工芸品の収蔵状況)



永青文庫は、細川家の700年に及ぶ歴史の中で蓄積されてきた美術工芸品や中世から近世にかけての膨大な古文書類を所蔵している公益財団法人です。このうち、1500点余の美術工芸品は熊本県立美術館に、また、推定7~8万点と称される古文書類は熊本大学附属図書館に保管されていますが、これまで十分な調査が行われず、その全貌は明らかではありませんでした。

このため、熊本県では、県内の企業・団体の御協力のもと、平成20年3月に「永青文庫常設展示振興基金」を立ち上げ、それを原資として、日本でも有数の価値を持つ、永青文庫資料の公開・活用に向けた取組を開始しました。本号では、この取組の状況についてご紹介します。

永青文庫常設展示振興基金の趣旨

<趣旨>

公益財団法人 永青文庫は、国宝8件、重要文化財31件を含む数千件の美術工芸品や、数万件にのぼる歴史資料など、本県ゆかりの多くの資料を所蔵し、これらを保存・管理するために設立されました。しかし、所蔵品の中には、未だ専門的な調査・研究がなされていない資料も多く、また、保存や公開のためには適切な修復を要するものも少なくありません。今後、調査研究が進めば、新たに貴重な資料が見いだされる可能性が高く、また、修復ができれば、従来展示公開されることなく保管されてきた資料にも光が当てられます。

この基金は、永青文庫常設展示室の開設に当たり、所蔵品の調査・研究や修復等、常設展示の一層の充実を図り、文化振興のみならず、観光振興等、熊本県の経済発展にも資することなどを目的として創設されたものです。

<基金事業の枠組み>

永青文庫常設展示振興基金活用委員会

- 調査・保存・修復等の方針
- 調査成果の広報
- 進捗状況の把握 事務局（県教委）

指導監督

<美術工芸品>

- 調査活動
- 修復事業

<古文書類>

- 調査活動
- 研究活動

活用

<基礎的な活用>

- 展示活動（常設展示）
- 広報・普及活動
- 国宝、重文等の指定

<二次的な活用>

- 教育活用
- 観光や地域おこしの素材としての活用

<御寄附をいただいた企業・団体一覧>

本事業は、下記の企業・団体のご協力のもと実施しています。

株式会社 肥後銀行、「熊本城400年と熊本ルネサンス」県民運動本部、株式会社 鶴屋百貨店、熊本第一信用金庫、社団法人 熊本県法人会連合会、株式会社 熊本放送、財団法人 熊本放送文化振興財団、株式会社 熊本日日新聞社、株式会社 テレビ熊本、熊本朝日放送株式会社、株式会社 熊本県民テレビ、熊本空港ビルディング株式会社（平成23年1月現在）

ご協力有り難うございました。

細川コレクション 永青文庫展示室 ー熊本県立美術館ー

永青文庫の美術工芸品は、財団の所在地である東京都文京区自白台と、細川家ゆかりの地である熊本に分けて収蔵されています。このうち、熊本県立美術館には、近代日本画や屏風絵などの寄託品74件と、昭和57年以来、保管している「預かり品」、約1500件が所在しています。このうち、預かり品については、これまでほとんど調査が行われたことはなく、その収蔵庫は、言わば「開かずの蔵」のような状態でした。

平成20年4月25日、永青文庫の資料を常時観覧したい、との多くの県民の皆さんからの要望を受けて、県立美術館に「細川コレクション 永青文庫展示室」がオープンしました。これを機に、手つかずだった預かり品の調査が開始されました。武器・武具約300件、漆工芸・陶磁器・能面・金工品などの大名調度類約970件、藩主の絵画・書蹟など約300件ほどから構成されていることがわかり、およそ10年ほどの期間での調査が計画されています。また、このうち、保存状態の悪い資料については、展示公開の前提として、専門家による保存修理も計画的に進められています。今回の調査では、「開かずの蔵」から、国宝や重要文化財クラスの新たな資料の発見も期待されています。

■調査・修復事業（美術工芸品）

①寄託品 近代日本画・屏風絵等 74点

②預り品 昭和57年以降正式な寄託手続きを経ずに県立美術館が預かっている資料 推定点数1,500点
 - 武器武具類（甲冑、鞍鎧等）
 - 大道具類（漆工芸、陶磁器、能面、能装束等）
 - 細川家歴代当主の書画類

③事業 調査委員会による調査、専門家による修復



細川コレクション 永青文庫展示室



→熊本県立美術館に仮収蔵されている預かり品（約1500件）

【左】専門家による預かり品の調査状況
 【中】おびただしい数の屏風絵群
 【右】細川幽斎所用の紅糸威護巻
 （平成21年度修復完了）



熊本大学永青文庫研究センター ー熊本大学ー

永青文庫には、総数7～8万点とも推定されるおびただしい数の古文書・古記録類が残されています。これは、質・量ともに、中世から近世にかけての日本最大級の歴史的な資料群です。古くは細川忠利など歴代藩主の菩提を弔うための寺院である妙解寺跡に建てられた北岡邸の蔵に保管されていましたが、昭和39年以降は、熊本大学附属図書館に寄託され現在に至っています。織田信長や豊臣秀吉の書状などのほか、特に近世期の膨大な藩政資料（行政文書）が充実しており、日本の地域研究の基礎資料としては比類なき価値を持つものです。資料の分野は、歴史、建築、法制、科学、教育ほか、近世のあらゆる分野の情報が集積されており、詳細な目録の作成と公表が行われれば、歴史研究のみならず、さまざまな領域での新たな知見をもたらすことが予想されています。

熊本大学では、平成21年4月1日に、文学部付属の「永青文庫研究センター」を立ち上げ、熊本県からの受託研究という形で、「古文書・古記録部門」、「絵図・地図部門」、「有職故実部門」、「文学・文芸部門」の四部門ごとに、調査研究活動を行っています。このうち、全体資料の概要を示すための「基礎目録」の作成と、貴重資料の出版が中核となる事業であり、およそ5カ年での予定で作業を進めています。

■調査・研究事業（古文書類）

- ①寄託資料 昭和39年以降熊本大学に寄託されている歴史資料としての古文書・古記録
類総数7～8万点
- ・歴史資料
 - ・文学資料・書籍
 - ・絵図、地図、建築図面（指図）ほか



熊本大学永青文庫研究センター

- ②事業 永青文庫研究センター（H21.4.1設置）受託
- ・資料の全点確認と目録作成作業
 - ・中世期の資料の出版事業
 - ・その他、資料の研究事業ほか

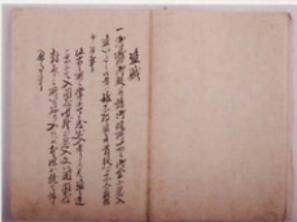


→熊本大学附属図書館に寄託中の膨大な古文書群

〔左〕永青文庫叢書Ⅰ「細川家文書中世編」平成22年5月 吉川弘文館刊

〔中〕明治政府も立法の参考とした「刑法草書」

〔右〕奉行所の公式記録「日帳」



新指定・登録の文化財

国指定有形文化財（建造物） 旧玉名干拓施設

所在地：玉名市大浜町字末広開、横島町横島字神崎尻、横島町横島字明豊開、横島町横島字大豊
指定日：平成22年6月29日

玉名市横島町には、干拓労働歌「横島潟扱い節」が伝承されているように江戸時代から盛んに干拓が行われていました。旧玉名干拓施設は、明治26年(1893)から41年(1908)にかけて建設された総延長5.2kmに及ぶ堤防と樋門（干潮時に扉を開け内陸部の水を排出し、満潮時には扉を閉め海水の侵入を防ぐ仕組みを持った施設）です。



明丑開堤防

未広開、明丑開、明豊開及び大豊開の4所の潮受堤防がほぼ連続的に築かれ、また未広開と明丑開の潮受堤防の間の3カ所に、樋門が築かれています。つぎはぎだらけの姿は、大正から昭和にかけての高潮被害のたびに、その時期の新しい技術（コンクリートによる波返し、鞘石垣等）で修復工事が行われたことを示すもので、人と水との闘いの証そのものと言えます。旧玉名干拓施設は、大正期・昭和初期におけるわが国の干拓地築造技術を知る上で重要な施設です。

国指定史跡 熊本藩川尻米蔵跡 外城蔵跡 船着場跡

所在地：熊本市川尻3丁目1129番8号
指定日：平成22年8月5日

平成22年8月、日本で初めて江戸時代における藩の米蔵施設が国の史跡に指定されました。それが、「熊本藩川尻米蔵跡 外城蔵跡 船着場跡」です。米蔵跡や船着場跡は、熊本市南部の加勢川下流右岸に位置しています。



船着場跡

この地は、加藤清正が肥後に入国した天正16年(1588)頃から本格的な整備が始まりました。そして、細川藩の時代に藩の奉行所や御茶屋、御蔵が建てられたことにより、川尻は玉名や八代と並んで年貢米の主要な集積地となりました。川尻の米蔵に集められた年貢米のほとんどは、大坂の蔵敷へと送られ堂島の米市場で売られました。



外城蔵跡

「熊本藩川尻米蔵跡 外城蔵跡 船着場跡」は、江戸時代の物流や水運の様子をうかがうことができる貴重な史跡です。

県指定重要文化財（工芸）光圓寺の梵鐘

所在地：八代市通町9-6 光圓寺
指定日：平成22年8月20日

旧八代城下の光圓寺境内にある江戸時代初期の梵鐘で、撞座（梵鐘をつく木材を受ける丸い部分）の位置やデザインに江戸初期の特徴が見られます。

光圓寺の梵鐘

構造 銅製、
総高 123.0cm、
口径 71.3cm



元々は、細川氏が織田信長の供養のために建てた泰岩寺にかけられていたもので、本能寺の変の折に細川幽斎・忠興父子が髪（髪の毛をまとめて頭の上で束ねた部分）を切って亡き主人への弔意（死を悲しみいたむ気持）を表したことや、信長の三十三回忌に際して細川忠興が大規模な法会を行ったことなど、信長と細川氏の深いゆかりを示すことがらが刻まれています。

また、細川氏の肥後入国に伴って、寛永10年(1633)に泰岩寺が八代へ移されますが、宝曆4年(1754)、寺を訪れた藩主重質は、この梵鐘の由来を知って感銘を受け鐘楼門の建設を命じたと記されています。

江戸時代初期の梵鐘の例として、また、熊本の歴史に影響を与えた細川氏の動静を示す銘文が記されるなど、歴史的な資料としても貴重なものです。

世界遺産登録に向けて（平成 22 年度）

熊本県では、県内の貴重な文化資産の価値を見つめ直し、未来に引き継いでいくため、世界遺産への登録を目指しており、市町村や関係各方面の皆さんと連携して次のような取組みを進めてきました。

「阿蘇」については、世界文化遺産登録に向け、文化財国指定（選定）のため、専門家委員会の開催や学術調査を実施しています。

「九州・山口の近代化産業遺産群」については、構成する文化財資産の範囲や周辺におけるバッファーゾーン（緩衝地帯）の設定など、より細かな調査を進めました。

「天草のキリスト教関連資産」については、2月7日に、崎津教会周辺の漁村景観が国の重要文化的景観に選定され、世界遺産の構成資産に含められるための着実な進展を見ました。

今後、小学校で世界文化遺産を題材としたモデル教育の実施や、地域ごとのシンポジウムの開催をはじめ、各機会ごとに地域住民の皆さんを対象とした説明会などの広報活動を展開して参ります。



【お問い合わせ】 熊本県教育庁文化課 TEL 096（333）2705

世界遺産登録推進HP <http://www.pref.kumamoto.jp/site/sekaiisan/>

史跡鞠智城の特別史跡指定・国営公園化を目指しています。



鞠智城は山鹿市と菊池市にかけて所在する、古代山城の一つとして国史跡に指定されています。昭和42年から始められた発掘調査は32次を数え、これまでに貴重な遺構や「百濟系菩薩立像」など重要な遺物が発見され、「温故創生館」で展示・解説しています。

熊本県では現在、特別史跡指定・国営公園化に向けた様々な取組を進めています。8月8日には東京シンポジウムを開催し、約600名の方々にご参加いただきました。また、平城遷都1300年祭や韓国忠清南道の大百濟典、九州国立博物館に鞠智城ブースを出展し、国内外に鞠智城をアピールしました。こうう君も各地で大活躍でした。

【お問い合わせ】

熊本県立装飾古墳館分館 歴史公園鞠智城・温故創生館

〒861-0425 熊本県山鹿市菊鹿町米原443-1

TEL 0968(48)3178

HP <http://www.kofunkan.pref.kumamoto.jp/kikuchijo/>

発掘！調査現場から

新屋敷遺跡～古代の刀子と新屋敷～

熊本市新屋敷にある遺跡で、奈良時代（約1300年前）の住居跡から、長さ19cm・幅2.5cmの刀子が発見されました。住居跡も同じ場所に集中して見つかり、約50軒もの住居を検出しました。おそらく短い期間に建て替えを何回か行ったのでしょうか。

奈良時代は、文字が伝わって間もないこともあり、役人等しか使わなかったとされています。また、紙ではなく木簡という木の札に字を書いていました。刀子は、その文字を消すための道具として使われていたのです。それにしても、これほど立派な刀子を使っていた人は、どんな人だったのでしょうか。



出土した刀子

飛田遺跡群～古墳時代中期のお墓を発見～

飛田遺跡群は、熊本市四方寄町にある遺跡で、国道3号熊本北バイパス改築事業のため発掘調査を行いました。調査面積は約5,000m²で、縄文時代、古墳時代および古代の遺物や遺構が確認されました。主な遺物は、縄文時代後・晩期の土器、古墳時代、古代の土師器、須恵器などが出土しました。遺構は、古墳時代中期に使用されたと考えられる方形・円形周溝墓が4基検出されました（写真）。写真後方の四角い溝は、方形周溝墓です。外周の一辺は約17mで、西辺に人が出入りするための橋である陸橋部（矢印）がありました。前方の丸い溝は、円形周溝墓です。外周の一辺は約10mで、西辺に陸橋部（矢印）がありました。また、中央に穴を掘って石棺や木棺などの棺を造り、その中に遺体を埋葬する主体部も見られました。



方形・円形周溝墓

伝大通寺遺跡

遺跡は熊本城の北、京町台地の標高約37mの所に位置します。調査地は、「肥後國誌」に記された「大道寺」の有力な推定地です。

調査では、平安時代以前の整地層や掘立柱建物の柱穴や不要な物を捨てた穴等が見つかりました。中でも江戸時代に掘られた穴から、奈良に藤原宮があった頃に作られた軒先を飾る丸い瓦が出土しました。この瓦の文様等の特徴から、国指定史跡「智城跡」で出土した瓦に続く時期に使用されていた瓦であろうと考えています。

また、この地は、春木坂の由来になった春木主税の屋敷等があった場所で、当時のゴミ捨て穴や柱穴等武家屋敷関係の跡があり、そこから陶磁器・瓦・かんざし・柄鏡等も出土しています。



発掘された丸瓦

くわづる いせきぐん ごちゅうなかばる いせきぐん 桑鶴遺跡群・五丁中原遺跡群

～出土遺物から、古代の灯り「灯明皿」～

桑鶴遺跡群・五丁遺跡群の今年度の調査では縄文～中世の遺構・遺物が見つかりました。その中で今回は古代（9世紀頃）の住居跡から出土した照明具の「灯明皿」について紹介します。

やや大型のこの「灯明皿」は、住居地の床下から逆さまの状態で見つかりました。これには何か儀式的なことが考えられます。役目を終えた「灯明皿」は人々の感謝の元、静かな眠りについたのでしょうか。

昼間の労働の疲れを癒すためには、このやわらかな灯りが古代の人々には必要だったのでしょうか。考古学とは出土した遺物から、様々なことを考え、そして語らせることにあります。それは私たちのこれから指針ともなるのです。



灯明皿

北岡横穴墓群 ～墓を築いた手順や埋葬方法が判明～

熊本市春日に新しく、熊本駅近くの万日山・花岡山から続く丘陵の崖面（軟らかい凝灰岩）に横穴を掘って築かれたお墓群（約1,350～1,300年前の古墳時代終末期【飛鳥時代】）です。平成19年度の発掘調査で11基、今回の調査で新たに4基の横穴墓が確認され、そのうちの2基は墓に閉塞石（墓を閉じる石の蓋）が立った状態で発見されました。

墓を閉じた状態から発掘調査を行うと当時の横穴墓を築いた手順や埋葬方法を復元することができます。今回の横穴墓の構築手順と埋葬方法を復元すると次の様になります。

①崖に横穴を掘り、墓を造る。②死体を安置する。③死者を弔う儀式を行う！？（土器が重ねられて出土）④石の蓋で墓を塞ぐ。⑤墓の前を土で埋める。（再度儀式を行う！？）



3つに区切られた死体を置く場所（右、左、奥）に残る人骨

滝川石田遺跡

上益城郡御船町滝川にある遺跡で、御船川と矢形川の間に位置しています。今年度の調査では、古墳時代の家（竪穴住居）の跡18軒の他に東西方向に走る大きな溝や小さな穴も一緒に見つかりました。そして主に家の中から当時の人々が使っていた素焼きの焼き物（土師器・須恵器）が多く見つかっています。

遺跡内には、河川の近くということもあり砂や礫が堆積している部分もありますが、そうした場所でも家の跡が見つかっています。くつろぐために横になるのも大変そうですが、どうしてこんなところに住んでいたのでしょうか？なにか理由があるのかもしれませんね。



発掘の様子

きたなかじまにしほらいせき 北中島西原遺跡

県文化課では、九州横断自動車道延岡線建設事業に伴い、平成22年12月から「北中島西原遺跡（山都町）」を発掘調査しています。遺跡は標高520mの丘陵地に位置しています。縄文時代早期の遺構を調査中に、弥生時代後期の竪穴住居跡を一棟検出しました。標高の高いこの地で、ということだけでも驚きでしたが、この住居跡から鏡が二面出土しました。ほぼ完形のもの（径6.5cm）と破鏡でした。破鏡には1.5mm程の穴があけられていました。今後調査区では旧石器時代の調査を始めます。また新しい発見があることでしょう。調査は来年度末までの予定です。



竪穴住居跡出土した2面の鏡
はきょう

はばつるいせき 幅・津留遺跡

本年度の発掘調査で、幅・津留遺跡には弥生時代中期後半（約2000年前）に繁栄した2つの集落があることがわかりました。この2つの集落は、集落のつくりが非常に似ています。それは、竪穴住居が集中する住居域と土坑墓などが集中する墓域との間には両者を区画するような大きな溝が存在することです。また、墓域は、住居域の西側に必ず配置してあります。

一方、違う点もあります。私たちは2つの集落を「西のムラ」「東のムラ」と呼んでいますが、西のムラの溝はVの字をしていて深いのですが、東のムラはUの字で傾斜が緩やかで浅いでいます。この違いは溝を築いた時の目的が違っていたためと考えています。現在、この違いについて調査中です。



集落をとりまく溝

とびのおおうけつぐん 飛尾横穴群

工事中に見つかったお墓の調査を行いました。今から約1,500年前に造られた、横穴墓と呼ばれるもので、崖面をくりぬいて造った小さなほら穴です。ほら穴と言っても、天井は高く、中は、3人が同時に入れるくらいの広さがありました。

写真は、中から、入口側を見たところで、立ったままの石（閉塞石）も見つかりました。亡くなった人を入れたあと、入口をふさいだままの状態であることが分かります。電気も機械もない時代に造られたお墓が、現代まで、そのまま残っていることに驚くばかりです。



発見された横穴墓

夏休み遺跡発掘体験・見学会



調査の現場では日々新しい発見があります。夏休みを利用して児童生徒に、地域の歴史を学び、本物の土器や石器にふれる感動を味わっていただこうと遺跡発掘体験・見学会を実施しました。8現場で総数470名を超える参加をいただきました。「土器ができたときがとってもうれしかったし、ワクワクしました。またやりたいです。」という小学生の感想が寄せられました。

「くまもと教育の日」関連企画 すべてみせます発掘現場！



「くまもと教育の日」関連事業として、発掘調査中の遺跡発掘現場を広く公開しています。発掘調査現場の生の雰囲気に触れていただける事業です。

4現場で行われ、総数200名を超える方に参加していただきました。「何回も通っていたのにこの遺跡を知らなかった。大変良い機会だった。」「子ども向けの説明がよかったです。」などの感想が寄せられ好評でした。

熊本県発掘調査速報会「熊本 ば！ 発掘する」



第1部 プрезентーション



第2部 道具の今昔



第3部 ペーパークラフト



第3部 土器接合体験

熊本県教育庁文化課では、毎年県内で行った文化財調査の成果を発表する速報会を開催しています。2月20日に実施された速報会では300名を超える参加がありました。

発掘調査の状況を調査担当者による発表とポスター展示により、職員の分かりやすい言葉で説明がなされていました。

プレゼンテーションでは、各現場の成果が大スクリーンで映し出され、臨場感あふれる発表が行われました。縄文時代から近世に亘る時代の説明があり、遺跡の発掘調査の説明では例がない泥面子(どろめんこ)の紹介などもあり、参加者の皆様も興味津々の様子でした。

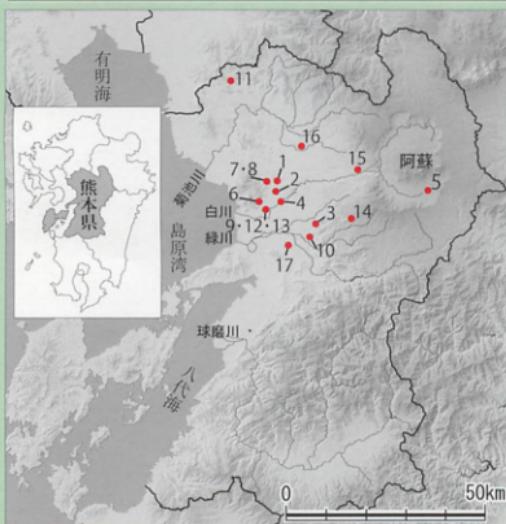
ポスターセッションでは、紙面とともに発掘されたばかりの出土品も展示され、県内で実施した文化財調査の成果をできるだけ分かりやすい言葉で、興味深く語られていました。

また、土器接合体験やチビ考古学講座など今回初めて行われたコーナーもあり、参加の方々にも好評でした。

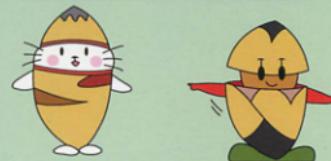
ぬり絵、プラホビー、ペーパークラフトなど小さなお子様も楽しめる内容があり、考古学に関連する内容もあり、親子で楽しんでいる様子がみられ、熱気に包まれた速報会となりました。

平成 22 年度 県文化課発掘調査遺跡一覧

調査番号	遺跡名	所在地	主な時代	主な遺構	主な遺物
1	飛田遺跡群	熊本市四方寄	縄文・古墳	方形周溝墓	土師器・
2	伝大道寺跡遺跡群	熊本市京町	古代～近世	土坑・溝	土師器・須恵器・瓦・陶磁器
3	塔平遺跡	上益城郡益城町	縄文・古代	掘立柱建物・溝・連結	縄文土器・土師器・須恵器
4	新屋敷遺跡	熊本市新屋敷	古代～近代	豎穴建物・掘立柱建物、土坑・溝	土師器・須恵器・陶磁器
5	幡・津留遺跡	阿蘇郡高森町	弥生・縄文	墓・溝	弥生土器
6	池辺寺闇連遺跡	熊本市池上町	古代	基壇	土師器・須恵器
7	桑鶴遺跡群	熊本市和泉町	古代・中世	豎穴建物・土坑	縄文土器・石器・土師器・須恵器・中世土器
8	五丁中原遺跡群	熊本市和泉町	縄文～中世	豎穴建物・土坑	縄文土器・石器・土師器・須恵器・中世土器
9	二本木遺跡群(熊本駅立体交差)	熊本市春日	古代・中世	豎穴建物・掘立柱建物、土坑・溝	縄文土器・須恵器・土師器・輸入陶磁器・鉄器
10	淹川石田遺跡	上益城郡御船町	古墳	豎穴建物	土師器
11	村遺跡	玉名郡和水町	古墳、中世	豎穴建物	土師器
12	北岡横穴群	熊本市春日	古墳	横穴墓	須恵器・玉類
13	二本木遺跡群(春日地区)	熊本市春日	古代・中世	豎穴建物・掘立柱建物、土坑・溝	縄文土器・須恵器・土師器・輸入陶磁器・鉄器
14	北中島西原遺跡	山都町北中島	弥生・縄文・旧石器	豎穴建物・集石	弥生土器・鏡・縄文土器
15	瀬田狐塚遺跡	菊池郡大津町	縄文	集石・土坑・落し穴	縄文早期土器・石器
16	平町遺跡	菊池市泗水町	縄文・古代・中世	豎穴建物	縄文土器・須恵器・土師器
17	飛尾横穴群	熊本市城南町	古墳	横穴墓 4 基	須恵器・鉄刀



文化財資料室



文化財資料室では、埋蔵文化財の整理・報告書作成、出土遺物・調査資料などの保管と活用を行っています。熊本市城南町沈目に移転し、施設面の整備・新たな文化財を活かした活動を徐々に進めています。



文化財通信くまもと第 29 号 平成 23 年 3 月 31 日

発行: 熊本県教育委員会文化課 TEL 096(333)2704 FAX 096(384)7220

編集: 熊本県文化財資料室 TEL 0964(28)4933 FAX 0964(28)7798

印刷: (株)ソーゴーグラフィックス

22 教委 教文

④ 012